キャラ崩壊！！物語１～こくこく染まる黒～

桜井はる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キャラ崩壊！！物語１～こくこく染まる黒～

【Ｎコード】
Ｎ０２１４ＢＡ

【作者名】
桜井はる

【あらすじ】
これはキャラ崩壊します！！
うん。絶対絶対♪
しかも非現実的で、魔法とかでてくるかも・・・・・・
それと、これは原作の事件の内容とか、トリックどんどんつかいます♪
それがやならよまないでください！
あと苦情、うけつけません。
てか無視します。

それでもいいならよんでみてくださいな。
それいがいはバックばっく！！
コナンくんの性格とかかわってるし。
灰原さんも！！
本当もうどたばたです！！
でわ～

ファイル1～物語の設定～

まず内容設定♪

登場人物

江戸川コナン（工藤新一）

どうして偽名つかってるかは知ってるよね？そこはとばします♪

この物語の主人公。

町一番の美少年とのうわさだが本人はそんなことときずいていない。

またキッドキラー、少年探偵団の頭脳、星として有名だが控えめな発言などでさらに人気がでていることは本人はぜんぜんしらない。

最近、組織の人間の気配がわかるようになった。

最近は危険なことがおおすぎて普通の生活というよりもいつ組織に招待がばれるかはらはらどきどきの生活をおくっている。

毛利蘭

かなりの美人だが、新一が居るため「男子もねらってこない。

コナンのことを影でささえるお姉さん。

コナンの正体にはきずいていない。

新一のかえりをこころまちにしている。

灰原哀（宮野志保）

コナンとおなじでおおまかな設定はみんなしってるよね？

最近、平和ボケになってきたらしく組織の第五感がはたらなくなり、組織の気配がわからなくなった。

コナンのようなあかるくも、言葉にとげがあるような性格になり、組織にはあまりおびえなくなった。

推理力もコナンといたおかげでコナンほどではないがどんどんあがった。

子供達ともなかよくなり、歩美のことをたまに歩美ちゃんとよぶようになった。

組織へのおびえ方はコナンと真逆になった感じ。

吉田歩美
コナンと灰原の正体にきずき、光彦、げんたとともに二人をといつめ、見事二人の正体をしり、協力してくれるようになった。
哀とは本当になかよくなり、信頼しあえる存在。
コナンのことがすきだが、その思いは胸にしまってある。
円谷光彦
歩美とともにコナンと哀の正体をしる。
それからは二人に協力している。
哀に好意をもっていて、組織のことが終わったら哀に告白しようとしている。
コナンにもきをゆるしていておたがいに信頼しあっている。
小島げんた
歩美、光彦とともに、コナン、哀の正体をしる。
それからは二人に協力している。
コナンのことを親友としてみとめていて、歩美のことがすき。
警察関係者はマンガをよんでね♪
服部平次
くわしくはマンガで♪
かずはがていたんに母親の事情で天候することになったため、ついてきた。
いまはあがさ邸に居候中。
コナンのことをささえている。
遠山かずは
平次とともにあがさ邸に居候中。
コナンの正体にきずいていない。
灰原アミ（クリスヴィンヤード）
組織を裏切り、あがさ邸まできて、そこでＡＰＴＸをのみ幼児化し、哀の双子の妹としてていたんにかよっている。また、あがさ邸に居候中。組織はクリスが秘密主義者のため、大丈夫だと思い、クリスをおってこないため、クリスは哀とコナンの協力をしている。

コナンのことを江戸川君、哀のことを哀とよんでいる。
大野夢（浦野ユリ）
ＦＢＩで下っ端としてはたらいていたが、クリスがもってきたＡＰＴＸをまちがえてのんでしまい、コナンたちの正体をしった。
組織の存在さえしらなかったため、組織に狙われる可能性がないことをおおいによろこんでいた。
あがさ邸に居候していて、ていたんにかよいながらコナンと哀の協力をしている。
鈴木園子
くわしくはマンガを♪
コナンたちの正体をしらず、最近はキッドの事情をしり、キッドの助手の、怪盗レディーレディーをしている。
黒羽快と
くわしくはマンガを♪
二代目快等キッド。
その子を信頼していて一緒に仕事をしている。
青子がすき。
毛利小五郎
くわしくはマンガへ！
コナンたちの正体をしらない。
えりとよりをもどし、コナン、蘭、小五郎、えりの４人暮らし中。
妃えり
小五郎とおなじ。

てな感じ？
途中でまだまだでてくるよ♪
これは現実てきじゃなくて非現実的っす！
魔法とかでてきちゃうかも・・・・

ファイル2～黒の組織との再会。コナン編～

学校の休み時間・・・・

夢

「ねえねえ知ってる？こんどのゴメラの撮影でしんじゃった人をしのぶ会」

歩美

「もっちろん！！しってるよ～外国の有名な俳優さんとか、スポーツ選手とか、いろんな有名人がくるんだよね」

夢

「そうそう。それでね、子供だからこそっとしのびこめるしいってみないって平次おにいさんが。おにいさんだけ正体されてるの。今日の夜！」

光彦

「そうですね。ぼくらも一応有名人ですもんね。」

げんた

「だよな。いってみようぜ」

アミ

「まあ。いってみようかしら？」

哀「そうね。てか江戸川君は？」

みつひこ「ああ。ちょっと風っぽいみたいで保健室でねてますよ？」

哀「へえ。まあ江戸川君だったらついてきそうね。」

歩美
「うん。うん。まあ今回はいいんじゃない？」

哀
「しょうがないわね。」

そのころコナンは・・・・・

コナンは夢のなかにいた。

みんなで」学校の帰りに雪がふる道をあるいている。

げんた
「おい観たかよ昨日の試合！」

コナン「ああ・・・ヒデのオーバーヘッドだろ？」

光彦「芸術的でしたよねー！！」

『戯言は終わりだ・・・さあ夢からさめて・・・お前の好きな緋色で、再会をいわおうじゃないか・・・』

コナンたちはポルシェのよこを」とおりすぎる。

『なあ・・・工藤新一・・・』

コナンはとびおきた。

コナン
「ハア、ハア、いやな夢だぜ・・・」
コナンは頭をかいた。
保健室の先生はいないようなので保健室をぬけだす。
教室につくともう事業がはじまっていた。
小林
「あら、もう大丈夫なの」
コナン「はい。すいませんでした・・・」
息はたしかにきれていてひどく冷や汗をながしていた。
コナンは悲しい険しい表情で席にすわった。
哀
「夜、子供たちと服部君といっしょにしのぶ会にいくの。ハイドシティホテルの。あなたもいくでしょ？」
コナン
「ん、あ、あぁ・・・・」
そのすぐあとに授業がおわった。
歩美「わ～みて、雪がふってるよ～」

げんた「すっげ～」

歩美「ほら、コナンくんも・・・・」

歩美がコナンの手をつかんだ。

コナンはつよく手を振り解く。

コナン

「俺にさわんな！！」

歩美

「こ、」

光彦

「コナン君・・・？」

アミ「・・・・・・」

夢

「・・・・・・」

哀

「・・・・・・」

コナン

「もううんざりだよ・・・。こんなところ・・・。すぐにでもここからきえちまいたいくらいに。まあそのうちそうなるだろうけど・・・・」

歩美
「え～コナン君天候しちゃうの～」
光彦
「ひょっとしていじめですか！？」
げんた
「そんなのおれがやっつけてやんよ！！」
歩美「ぁ・・・・もしかして、組織のこと・・・・？」
コナン「へ？あ、わり。風邪気味だったからうつしたくないだけだよ。」
歩美
「よかったあ。さあかえろ？あがさ邸までみんなでいってそのまましのぶ会いくんだから♪」
コナン
「ああ。そうだな。」
アミ、あい、夢「・・・・・・」
全員で帰りみちをあるいていた。
歩美「ゆーきやこんこんあられやこんこん♪」
コナン「・・・・・・」
哀「ここは自分の居るべき場所じゃない・・・・この子達をまきぞ

えにしないためにも早くここから消えなければ・・・・」

コナン「へ？」

哀「なーんてくだらないことかんがえているんでしょ？」

夢「大丈夫だよ。薬で体がちじんだんなんて夢物語、誰もおもいついたりしないよ～ね、あみ？」

アミ
「そうね。ばれないためにもこのまま子供をえんじつづけなきゃいけないのよ・・・」

哀
「そのときがくるまではね・・・・」

光彦
「心配しないでください！！」

げんた
「やばくなったらよ、」

歩美
「歩美たちが二人をまもってあげるもん♪」

コナン
「（おめえら・・・なにもわかってねえんだな・・・俺らだけでなんとかできるあいてじゃねえことは今までの経験でわかってんだろ？もしかしたらあの夢のように今もこの町のどこかで俺たちを・・・・）」

コナンはびっくりした顔で」そばにとまっているポルシェ３５６Ａをみた。

コナン「おい、それ・・・・」

歩美
「ぽ、ポルシェ・・・」

哀
「てことはジンの・・・」

哀は博士に電話しだした。

哀「すぐきて、そう、あれをもって！！みんなでのれるレンタカーかりてきなさい！！」

しばらくするとおおきなワゴン車にのった博士と平次がやってきた。

哀と平次ははかせがもってきたハンガーと針金で車のドアをあけて中にはいりこんだ。

コナン
「ちょ、おい！！」

哀は盗聴器と発信機をしかけた。

コナンもあわてて車の中にはいりこみとおりの向こうをみてあぜんとした。

コナン
「ジン、ウォッカ・・・」
とおりのむこうにはその二人がいた。
コナンはあわてて平次と哀をむｔりやりひっぱってほかのこどもたちとともにはかせのｔレンタカーにのりこんだ。
哀
「よし、発信機と盗聴器をしかけたわよ。」
平次
「とりあえずここで盗聴器から聞こえてくる音をきこうやないか・・・・」
コナン
「危険だ！！やめろって」
哀
「うるさいわね、だまってなさい！！」
歩美「あ、きこえてきた・・・」
ジン「ああ、おれだ。どうだ？そっちの様子は・・・？なに？まだこない？安心しろ。ターゲットは１８時ちょうどにハイド氏８ティホテルに顔をだす。てめえの別れの快になるともしらずにな。とにかくやつのてがうりろにまわるまえに口をふさげとのめえいれいだ。ぬかるなよ？スコッチ。何なら例の栗をつかってもかまわないぜ？」
げんた

「す、スコッチ？」

ジン「（ん？特徴があってさらさらの短めの黒髪・・・？）」

ウォッカ
「な、なんですかそれ？」

ジン
「発信機と盗聴器だ。」

アミ
「ばれた！？」

ジンは盗聴器をつぶした。

ジン
「（まさか本当にいきてたとはなあ・・・歓迎するぜ？工藤新一・・・）」

コナン
「どうすんだ？状況はかなりわりいぜ？」

哀
「大丈夫。社内に私たちの痕跡はけしたから。」

コナン
「これからどうすんだよ？」

平次
「パーティーに全員でのりこむんや。ターゲットはおそらく横領の

疑いがある近藤正孝や・」

コナン「俺はごめんだぜ?」

哀

「ええ。最初からそのつもりよ。あなたは博士と車の中でまってなさい。」

アミ

「そうね・」

歩美

「例の薬ぐらいはもってきてあげるから。」

ジン「ああそうだ工藤新一だ・・・殺し底値たあのがきがそっちにむかっているはずだ。面がわかんねえんなら組織の被験者リストをしらべろ・

ああ。まちがいなくあの男はくるさ。あいつはそういうやつだからな。

とにかくがきをみつけしだいとっつかまえて面をおがませろ。ああ、問題ない。たとえ首から下がなくてもな・・・・」

パーティー会場に博士以外のみんなはいた。

哀
「ついてこないんじゃなかったのかしら？」

コナン
「なんとなく。いやな感じがすっからきた。」

アミ
「あら、いたわよ？ターゲットさん。」

光彦
「ですね。」

アミ「いい？特に江戸川君、私達からはなれるんじゃないわよ？」

平次
「せやせや。てかしのぶ会だけあってみんなあやしく、いえてくんの～」

『工藤新一・・・・・』

『工藤新一・・・・・』

『工藤新一・・・・・！！！！！』

がしっ

「君、迷子？」

コナン「え、あ、あ・・・・」

哀「うん！！」

夢
「いまおとーさんさがしてるとこ」

歩美「いこ～光君」

歩美たちはコナンをつれてきた。

歩美
「どうしたの？」

夢
「コナン君らしくないよ？」

平次
「せや。」

コナン
「みたんだよ・・・」

一同「へ？」

コナン
「いやな夢・・・下校途中にジンたちにみつかって路地裏においこまれて一人一人、ジンに銃殺されていって・・・」

哀がそんなコナンに自分の帽子をかぶせた。

哀
「大丈夫よ。」

げんた
「そうだぞ」

光彦
「それをかぶっていればだいじょうぶです」

歩美
「うんうん♪」

コナン
「・・・・そうだといんだけどな・・・」

コナンはやさしく笑った瞬間スライドのせいで電気がぱっときえた。

ぱあ～ん！！

哀
「銃声」

どんがらがっしゃん！！

シャンデリアがおちてきた。

ハンカチがいちまいふってきて哀画キャッチした。

でんきがつくとおちたシャンデリアとそれにつぶされて死んでいる近藤正孝がいた。

悲鳴がいっきにきこえてくる。

軽侮たちがやってきてドアをしめた。

そとにはもう貴社がいっぱいだそうだ。

めぐれ

「怪しい人を見た人はいませんか？」

警部がさけぶがみんなだまっていた。

孝は普通にライスをたべていたが途中でぺっとシャンデリアの破片を由佳にはきだした。

孝「なんだこれ？」

哀はそれをさっとハンカチにくるんでとった。

平次

「シャンデリアをおとすなんて仕掛けでもないかぎりむりや。いったいどーやって。」

みんながかんがえふけっているとコナンが哀の手をつかんであうきだした。

哀
「ちょっと！！」

コナン
「これ以上ここに居座る必要はねえだろ。いくらおれたちだって落ちてきたハンカチだけじゃ。」

平次
「二つならどうや？」

コナン
「え？」

歩美
「住山っておじさんがご飯からシャンデリアのはへんをおとしたんだよ？」

平次
「それにハンカチもここで配られる限定もの。色があってさっきしらべたらあのハンカチとおなじのをもらったひとは7人だけや。」

アミ
「つまり容疑者はそれだけ。」

哀「ねえ刑事さん。トイレいっていい？」

刑事
「いいよ。どうぞ。」

ドアを開けた瞬間すごい勢いで記者たちがはいってきた。

みんなフラッシュをしていて１００人はこえている。

一同は唖然とした。

スコッチ「・・・・・」

スコッチはパソコンをあけた。

かたかた

ＫＵＤＯＵＳＩＮＮＩＴＩ

ぴゅうん

スコッチ「・・・・・」

しばらくすると客もかえろうとしてでようとして大混雑になってしまいそれに一同ものみこまれ２００人をこえるひとがぎゅうぎゅうズ目になってはいろうとしたりかえろうとした。

平次「お、おい大丈夫かあ！！」

哀

「あれ、工藤君は！？」

アミ
「いなくなってるわよ！！」
歩美
「うそ、こなんくん！！どこ！！」
げんた「こなーん！？」
光彦「コナン君！！！」
哀
「どこ、くどうくん！！！！工藤君！！返事して！！」
平次
「おい、あれ工藤とちゃうか！？」
コナン「あ、ちょ・・・」
コナンはだきかかえられた。
アミ
「だれかにかかえられてるよ！？」
哀
「もう、とおすぎるし人がおおすぎる！！」
コナンは口にハンカチを」あてられた。
がばっ

コナン「うっ・・・」

歩美「口にハンカチあてられてるよ!?」

コナン「・・・・」

がくっ

コナンはそのままきをうしなった。

『コナン君・・・・』

『おきてください・・・』

光彦

「コナン君!!」

コナン

「え?」

光彦

「どうしたんですか?今授業中ですよ?やっぱりやすんでいたほうが・・・」

コナン「(夢・・・?ふっ・・・そうだよな。下校途中にジンの車をみつけるなんてできすぎてるよな・・・風邪のせいでどうかしちまったのか?俺・・・・)」

『コナンくん・・・・』

コナン「え？」

『工藤、おい工藤！！』

コナン「なんなんだ？」

『コナン、コナン！！』

コナン「なんなんだよ・・・！！」

『工藤君！！』

やっとコナンが目をさました。

コナン「は、灰原？どこだここ？」

哀「よかった。いまめがねのきのうで会話してるのよ。他のみんあもいるわ。」

コナン

「な、なにがあったんだ？」

アミ

「それはこっちのせりふよ・・・あなたこそいまどこにいるの？迷子？」

コナン

「んなわけねえだろ。なにがなんだか・・・・」

歩美「歩美たちは博士の車のなかだよ。」

コナン
「あ、たしかおめえらとはぐれてそしたら後ろから男に・・・」

夢
「に、なに？」

コナン
「だきかかえられてクロロホルムかなにかをしみこませたハンカチで口をふさがれてそのまま「気絶しちまったんだ。」

哀「その男、いまいないんでしょうね？」

コナン
「ああ。どっかの倉庫を酒蔵にしたみてえなとこに監禁されてるよ。ドアの鍵はしっかりしまってけどな。指紋認識装置まであるぜ。」

平次
「今時期円のことをはなして7人の容疑者待機させてんや。犯人そのなかの誰かでまちがいないんやけどまだわかってへんのや。まあその中にスコッチとやらもいるやろうからあんしんしとき。」

げんた「でもよ。やっぱりあいつだったんだ。」

コナン「あいつ？」

夢
「つなぎきておっきなダンボールを台車で運ぶへんなやつがいたの。でね、おいかけたんだけど指紋認識のとかぎかけて私達を無理やり

おっぱらったのよ。」

コナン
「ふうん。あ、パソコンに俺のＭＯがつながってる。」

哀
「ＭＯ？」

コナン
「ああ。蘭からもらった遠足の写真のやつ。俺の服にはいってたから多分しらべｔ５あんだな。携帯もつながってるってことは・・・」

かたかた

コナン
「やっぱり。俺の顔を検索してる。」

歩美
「あれ？コナン君縛られてないの？」

コナン
「ああ。すぐもどってくる予定だったんだな。まあ服部のせいで足止めされてっけど。」

哀
「どこからかにげられないの？」

コナン
「暖炉がひとつあっけど広すぎて無理だな。元の体ならなんとかなるかもしれねえけど。」

哀
「ロープかなんかないの？」

コナン
「さあ？でもそんなのがあんなら俺をしばるのにスコッチがつかってるとおもうぜ？」

コナン「いいか？よくきけ。」

平次「へ？」

コナン
「いまパソコンで組織の構成員だけど住所とかだしたんだ。コレくらいならおぼえられんだろ？まずは鹿児島県、〇－５－３黒井竜や。」

哀
「ちょっと、暗記できるんならあとであなたをたすけてからきいてあげるから
！！」

コナン
「次。」

哀
「やめなさい！！」

コナン「うるせえ！！黙ってきけよ！！もうお前らと言葉をかわすことはねえだろうからな。」

平次
「どういうことや！？」

コナン
「わからねえか？やつらは俺が幼児化しているにもかかわらず監禁したんだぜ？てことはもうばれてんだ。俺がこのままにげまわってたらどちらにしろまわりのやつらが殺される。それに俺はもうパイ刈るでもどれねえし灰原のときよりもはるかに状況はわるい。な？じゃあつづけるぞ。」

哀
「とりあえずパイカルとできるだけアルコール濃度が高いお酒をのみなさい。もしかしたら・・・」

コナン
「わあったよ・・・」

歩美「ど、どおしよお・・・」

平次
「事件当時の容疑者の位置はわかったんやけどな＝・・・」

コナン
「なあ、思いつく言葉ってあっか？」

平次
「なんやそれ？」

コナン
「ＡＰＴＸのデーターをＭＯにおとそうとしてんだけどパスワードにひっかかちまって。」

哀
「う～ん・・・」

アミ
「多分それぴ巣子のときとおなじたいぷだからおなじパスワードでいいとおもうわ。」

コナン
「あ、ひらいた。このＭＯかくしとくから俺がつれさられてあとでとりにこいよ。」

哀
「それよりお酒のんだの？」

コナン
「ああ。どういうつもりだがしらねえが余計気分がわるくなったぜ・・・」

博士
「お、おいみんな！！」

一同「え？」

車のまえに人たちの車がやってきて二人がでてきた。

哀

「多分パソコンのなかに発信機がしかけられてたのよ！！」

歩美

「あぶないよコナン君！！悪い人たちがくるよ！！ねえ！！」

コナン

「ハア、ハア・・・」

平次

「おいどーしたくどう、返事せえや、おい！！」

どっくん！！

平次

「警部、服部や、いますぐ黒服の男たちにしょくしつせい！！」

刑事「いないよ？そんな人・・・」

どっくん

どっくん

コナン「アアアアアアア！！！！」

ぱっしゅ、ぱっしゅ

バン！！

ウォッカ「妙でっせ、だれもいやせん。」

ジン「帽子がおちて・・・」

ウォッカ「とにかくずらがりましょう。」

ジン「ああ、そうだな・・・」

哀「ねえ？もうやつらはいったの？」

コナン「あ、ああ・まさかまたもとにもどるとはな・・・・」

哀「あなたふくは？」

コナン

「倉庫にあったつなぎをきてるよ・・・・もちろん薬のデータをコピーしたＭＯももってるよ・・・」

哀

「安心しないで・その効果は一時的。子供になる前に煙突からでて・」

新一

「へいへい。で、わかったのか？誰がスコッチか。」

アミ

「残念ながらまだ・・・今大阪の探偵君がみにいったわよ。事件現場。」

光彦「大丈夫ですか？」

新一
「ぎりぎり・・・な。」

哀「あ、わかったわ！！スコッチの正体！！」

新一「で、でたぜ？でこれからどうすればいいんだ？」

博士「そこでまっていろといっておったぞ」

新一「博士？みんなは？」

博士「安心せい、いまそっちにむかっとる。」

新一「わかった・・」

パシュッ

ジン「あいたかったぜ？工藤新一。」

新一「ハアハア」

ジン「きれいじゃねえか。闇二枚散る白い雪。それをそめる真っ赤な先決・・・」

新一「よ、よくわかったな・・・俺がここからでてくるって・・・」

ジン「だんろのそばに帽子がおちてたからなあ。」

新一「へ、へえ。まあ感謝しなくちゃいけねえな。こんなさみいなかまっててくれたんだし。」

ジン「口が動くうちにきこうか。お前が毒薬をのんでしななかったわ1¥けを。」

歩美「もうすぐだよ！！」

哀「？・・・もしもし？」

哀「ええ！？工藤君がうたれた？」

はかせ「そうじゃ、どこかの屋上で。もう2、3ぱつはうたれてるぞお！！」

哀「うそ！？きるわね！！」

アミ「ｔｙっといそがなくちゃやばいわよ！！」

ぱあん！！

ウォッカ「はきませんぜ？このがき。」

ジン「ふっ。しょうがねえ。いかせてやるか・・・」

ジン「（針！？）」

ウォッカ「あ、兄貴・・」

アミ「煙突よ！！早く煙突に！！」

ウォッカ「誰だてめえは！！」

新一は煙突にはいった。

新一「ハアハア！！ウアアアアアア！！！！！」

スコッチ「すばらしい・・・」

コナン「（誰だ・・・？）」

スコッチ「君はまだ赤ん坊だったからおぼえてないだろうがね、女優だったきみの母と私はとってもしたしくてね、よくいっしょに共演したもんだ・・・だがこれは命令なんだ・・・」

コナン「（誰なんだよお前！！）」

スコッチ「悪く思わんでくれよ？新一くん・・・」

哀「そこまでよ！！バングさん・・・・それとも、スコッチってよんだほうがいいのかしら？」

スコッチ「だ、だれだ！？」

哀がスコッチの前にすがたをあらわしいきなりはしりだした。

スコッチもそれをおってはしりだす。

その隙にげんた、歩美、光彦、アミ、夢がはいってきてコナンにかけよった。

コナンはまだ意識が朦朧としていた。

歩美「大丈夫？コナン君」

光彦「もう大丈夫ですよ。」

アミ「ひどいわね。かるく5，6ぱつはうたれてるわね。」

夢「い、いたそう・・・」

そういうとげんたがぶかぶかのつなぎをきてめがねも帽子もしていない状態でだきあげて恵那かにまわしおんぶをした。

腕は打蘭としていてコナンのさらさらのかみがげんたにあたった。

コナンはもうすでに気絶しかけているようで荒い呼吸をしていた。

哀はスコッチに対し推理をはなしている。

スコッチがスピーカーにむかってはっぽうするとなかからかなりアルコール濃度のたかいさけがでてきてすっていたタバコが引火してもえだした。

そしてスコッチがあたふたしているうちに全員ぬけだした。

それからフロアにいくと平次と高木刑事がいた。

高木「おわっ！！どうしたんだい？コナン君！！」

平次「無事やったんやな！！よかった」

哀

「よくないわよ。どれも急所ではないものの江戸川君もう６発はうたれているんだから・・・・コレがぢ丈夫にみえる？」

アミ「とりあえずかえりましょう。ここは危険だわ・・・・」

平次「せやな。いこか。」

そして車のなか・・・・

平次「なんやとお！？スコッチが射殺された！？」

博士「ああ。新一がおとしていったためがねできいていたんじゃが。」

哀「にしても髪だけでだれかわかる？普通」

アミ「そうね。江戸川君のかみは男の子にしてはめずらしいほどさらさらしてて細いけど、髪だけじゃ、ねえ・・・」

光彦「そうですよね・・・・」

げんた「でもこええよな～監禁されて銃でうたれたなんて。」

コナンは一番後ろのせきで手をあかくそめて目をうっすらあけながら荒い呼吸をしていた。

哀

「で？どうする紀なの？工藤君。これから・・・・」

コナン「安心しろよ・・・明日にでもでてってやっから・・・」

博士「おいおい、無理じゃよそんな体じゃあ！！」

哀「大丈夫。私のときと同じようにさがさないとおもうから。江戸川君。いまからびょうんいくわね。」

コナン「いいよ。弾は貫通してるし、包帯まけば大丈夫だって・・・・」

哀「でも！！」

アミ「ストップ。しょうがないじゃないの。あんあことがあったのよ？あなたとおなじようにさすがの江戸川君でもこわがってもしょうがないでしょう？」

哀「・・・それもそうね・・・・かえったら包帯まいて麻酔銃でねかしとけばいいわね。朝まで心配だからみはってるっていたらかれ、ねないだろうから。」

アミ「そうね・・・」

歩美「今日は歩美たちもとまってくよ。」

平次「そか。蘭ちゃんにはどうするんや？」

哀「そうね・・・・とまってくって博士、電話してくれる？」

博士「わかった。でも新一、その怪我じゃしばらくあるけないんじゃないかのお。」

夢「平気です。あとで私達が松葉づえ病院からかりてきますから。」

博士「そうかの？あ、ついたぞ。わしはレンタカーかえしてくるから新一君をねかしといてくれんかのお・」

平次

「ああ。それならまかせろや。」

そういうと平次はコナンをおんぶして車からでた。

子供達もそれにつづく。

全員おりると博士は車をかえしにいった。

家にはいると哀の案内でリビングにある大きなベッドにコナンをねかせると平次がきがえ哀画治療をはじめた。

哀「まったく。ひどいわね・・・。１週間はあるけないわよ？」

歩美「うそお・・・学校はどうするの？」

哀「いけっていったていかないでしょ。ね？」

歩美「た、確かに。」

平次が着替えをもってきてコナンはそれにきおがえると布団にはいったが目はしっかりあいていた。

それをみかねた哀がコナンに麻酔張りをうちこむと、コナンｈはしずかにねいっていった。

ファイル2～黒の組織との再会。コナン編～（後書き）

登場人物
住山孝（３８）カメラマン
マイケル・ブラッグ（２９）俳優
斉藤五木（３３）作家
バング・ローダリー（６３）俳優
朝日洋子（３３）作家
武井広永（５５）カメラマン
沢口千夏（２２）モデル
コナン君の服装
パーカーのついたジャケットに、水色のセーターとながずぼん。
哀ちゃん
上にセーターでしたに赤色のスカート。
アミちゃん
氷河らのつけえりにピンク色のニットのももんが。
短めのデニムのすかーとにクローのタイツにブーツ。
夢ちゃん
ジャケットに青のセーターに半ズボン
歩美ちゃん
ピンクのニットのワンピースのなかに、ハイネックの白のＴシャツ。
ブーツ
光彦君
セーターに長ズボンにマフラー
げんたくん
袖なしじゃけっとにセーターに半ズボン。

ファイル3～目覚め。&キャラ雑談～

次の朝、おきるとコナンはもうおきてぼーっと外をみていた。
そんなコナンに哀がはなしかけた。

哀
「どうしたの？浮かない顔して。」

コナン
「ん、あ、あはいばらか・・・・なんかさ、昨日、スコッチよりもっとひどくつよくてさっきにみちたような組織のやつらの感じがしたんだよな・・・・」

哀「え？」

コナン「だ＾かーらーいたんだよあのホテルの中にスコッチよりももっと強くて恐ろしい感じをまとった組織のやつが。」

哀「うそ・・・・てことはスコッチがだれだかうすうすわかってたわけ？」

コナン「そゆこと。」

哀「なんでｓｐれをいわなかったのよ！！」

コナン
「いや。監禁されるまえはもう一人のやつに夢中で監禁されてからはちょっと鮭のせいで頭まわらなくてさ。」

哀
「はあ・・・・じゃあもしかしたらあなたの正体をしったやつがまだいるかもしれないわけ！？」

コナン
「まあそういうことになるな。」

哀
「そういえば、バングさんとあなたあったことあったみたいね。」

コナン
「へ？そんなことといってたか？わり、俺さ、だれかに拳銃むけられてたことと弦たたちがきたことしかおぼえてねえんだ。だれがなにいってたかはもうさっぱり。」

哀
「まああれだけされといてそんだけのんきなら大丈夫ね。」

コナン「のんきっておい・・・」

哀
「でもあなた当分事務所にかえれないんじゃない？そんな姿じゃ。」

コナン
「だな・・・・まあえりさんもかえってきたことだし家族団らんしてんじゃねえか？」

哀
「でもあなたには未来の息子じゃないの？」

コナン
「ば、ばーろー！！」

哀
「ふふふ・・・」

コナン
「（やっぱこいつ鬼だ・・・）」

哀
「あら、なにかいったかしら？」

コナン
「なにもいってません」

哀
「いいのよそれで。子供達もきずかれしたみたいで今日はやすむそうよ。ベッドからおりないで子供達の相手をしなさい。」

コナン
「わあったよ。それにしてもさ、昨日お前がきたあとなにがあったかせつめいしてくんねえか？」

哀
「なんならみんなの服に小型カメラしかけといたからみる？もちろん、あなたがさらわれるときのもあるわよ？」

コナン
「へ？じゃあ俺がさらわれたのおめえらみてたのかよ！？」

哀
「ええ、もちろん。あの時のあなた、本当の子供みたいな顔してたわよ？」

コナン
「うう・・・・・・」

哀
「ふふふ・・・・・」

歩美
「ふあああああ。おはよう、みんなあ。」

げんた
「腹へったあ。」

光彦
「第一声それですか・・・・・」

アミ
「あら、おきてたのね・・・」

夢
「ねっむ～い」

平次「ふあああああ。」

かずは
「あ、みんなやん。って、コナン訓どうしたんその怪我。まさかき

のうみんなおそかったこととかんけいあるんじゃ・・・・」

アミ
「ちょっと沸けありなの。わけをききたいなら２０００万、ここにおいていきなさい。」

かずは
「（この子にいわれるとなにもいえへんようになるんよな～・・・なんでやろ・・・・）」

アミ
「ふうん。なにもいわないってことはきかないのね。さ、時間を無駄にさせたぶん朝食をつくってきなさい。」

かずは
「は、は～い・・・・」

でわでわ～
キャラ雑談♪

はる（さくしゃ）
「まずまず～みんなで昨日のビデオをみましょ～すたーと！！」

げんた
「お。これ俺達が来たときのコナンだぜ。なんかいつもより性格よさそうにみえんな～」

コナン
「じゃあ普段はどうなんだよ」

哀
「そうね、一言でいうと、」

一同
「目立ちたがり屋、かっこつけ、確かに顔はかなりかっこいいし運動できるし勉強できるしだけど、一つ一つのせりふがクサイ。」

コナン
「そこまでいうか？普通。」

一同
「あれ、ちがった？」

コナン
「・・・・・あ、ここら辺から記憶がねえんだ。」

歩美
「コナン君をげんたくんがかかえたところからだね！」

コナン
「ふうん。こんなことといってたんだ。おめえら。」

アミ
「あなたは紀をうしないかけてたからね。おぼえてなくてもむりないわ。」

コナン
「てか俺かっこわり・・・・」

哀

「え。」

光彦

「いつもよりか素直そうでかわいげがありましたよね？」

一同

「うん！！」

コナン

「・・・・・」

はる

「ではではここまで～またのご来場を！！」

ファイル4～猫探しのコナンたち～

ある車の中

ウォッカ「え？あの男、この町でさがさないんですかい？」

ジン「ああ・・・・無駄なことはしねえ性分なんだ・・・・今頃、助けに来た女と、どこか遠くのまちにしけこんでるところだろーよ・・・俺達に顔をみられた街にのんきにとどなるような男じゃねえからな。」

マイケル「あれ？ずいぶん入れ込んでるんだね・・・その男に・・・・」

ジン「悪かったな・・・シードル・・・・あの金髪爺いをサポートするためにお前ほどの男をわざわざよんだっていうのに・・・とんだへまにつきあわせちまったな・・・・」

シードル

「本当。せっかく事情聴取のまえにハンカチをわたしてやったたてのによ・・・死んで正解だったな・・・それよりきにならね？そのがきとつるんでる女・・・」

ジン

「ああ。あの男につるんでいる女・・・みてみたいもんだ・・・そのつらを・・・」

シードル

「恐怖にゆがんだ、死に顔をな？」

ウォッカ
「また米国にもどるんですかい？」

シードル
「ｎｏｎｏ。しばらく俳優は休業・・・こっちでのんびりするつもりさ・・・ちょっと引っかかることもあるしね・・・」

一週間後

コナン
「猫さがしい！？」

歩美
「そうよ！！依頼なの！！コナン君もあるけるようになったしさ！！それに報酬がヤイバーの映画の試写会のチケットなの！！」

哀
「いいんじゃない？リハビリだと思えば・・・私はパスだけど・・・やうことがあるから・・・・」

アミ
「私はどうしようかしら？」

夢
「あたしはちょっと今日ジョディとお茶のやくそくが・・・・」

光彦
「じゃあ僕とアミさん、コナン君と歩美ちゃんとげんたくんでいいですね。」

かずは
「きいつけや～」

平次
「いってら～」

アミ
「まあ暇つぶしていどにはなるわね・・・・・」

コナン
「・・・・ま、いっか・・・・・」

歩美・光彦・げんた
「「「レッツゴー！！！！」」」

アミ
「で、どんな猫なの？」

歩美
「えっとね、アイリーンちゃんっていってね、とっても気品なめすも子猫よ。ロシアンブルーってしゅるいのねこだって。」

アミ

「ちょっとまって！依頼主、ってだれなの！？」

歩美
「えーっとねえ・・・べいか女子高の校医の浅井雄二先生だよ？」

アミ
「え、ごめんなさい、なんでもないわ。」

歩美
「？」

げんた
「つかまえたぞー！！」

歩美
「本当？じゃあさっそく浅井先生のおうちいこう？すぐそこの浅井診療所だから！！」

アミ
「そーね。」

浅井
「ありがとう君達！！あれ？二人ふえているね。」

アミ
「灰原アミです。哀の双子の妹。よろしく。」

コナン
「ん？あぁ江戸川コナン。よろしく。」
コナンはわずかだが冷や汗をたらしていた。
コナン
「（なんか組織の感じがすんだよな・・・この辺・・・）」
浅井
「ひどい怪我だね。どうしたんだい？」
コナン
「ちょっところんじゃって・・・・」
浅井
「へえ。ではこれ、チケットだよ？有難う君たち。僕は仕事があるから。じゃあね」
歩美・光彦・げんた
「「「さよーならー！！！」」」

哀
「おかえりなさい？みんな。ココアできてるわよ。はいりなさい。」
かずは
「さむうなかったか？」

アミ
「さむくないわけないでしょ」

かずは
「う・・・・・・」

平次
「坊主、怪我大丈夫やったか？」

コナン
「大丈夫だよ。」

哀
「ふうん。いろいろあったわね。」

アミ
「夢はまだかえってきてないの？」

哀
「ええ。」

コナン
「でさ、今度あいつらがスキーいかねえかっていうんだよ。」

アミ
「いいんじゃない？けど博士はしばらくかえってこないし・・・」

平次
「そら俺にまかしとき！！バスでいけばええことやしな！！」

歩美
「やったあ♪」

光彦
「すきーです！！」

平次
「ん～あさってでええか。ただし工藤はおとなしゅうロッジでまってるんやぞ」

コナン
「へいへい。」

ファイル４～猫探しのコナンたち～（後書き）

新しく登場した人物
浅井雄二（３２）
べいかじょしの校医。
シードル
？？？？？？？？？？？？？？？？？

ファイル5～バスジャックじけん。運命からにげてんじゃないわよ。哀からのき

歩美
「やったね♪ついにスキーだね」

平次
「ほら客のってくんで。ちゃんとすわりいや。」

歩美
「は～い。」

コナン
「なんかオメ江つまらなそうな顔そてんな。」

哀
「え？」

コナン
「組織にあいたくてしかたもなさそうだぜ？」

哀
「そんなわけないじゃない。子供たちがいるこのかで。」

どっくん！！

コナン「（え？）」

どっくん！！

どっくん！！

コナン
「（これは組織の！？）」

浅井
「あれ、君たち。」

歩美
「浅井先生。ジョディ先生も？」

ジョディ
「おう！！お久しぶりねい！！今からｍｒ浅井と美術館までデートです！！」

浅井
「たまたまあっただけで・・・」

げんた
「へえ。」

コナンはさっとフードをふかくかぶり、顔をかくそうとした。

哀
「ちょっとお、どーしたのよ？」

げんた
「あれ？あの人たちもうスキーウェアきてるぜ？」

平次

「きのはやいやっちゃのー。ゴーグルまでつけて。」

バスジャックA「うごくなあうごくとぶっころすぞお！！」

一同「！！！」

バスジャックB「都内を適当にはしれ！！」

ここからはマンガよんでね？

哀

「とりあえず警部に電話っと。てえ！？」

ばすじゃっく

「死にたいかこのがきい！！」

哀

「（うわ～携帯とられちゃたじゃない。ていうかあそこから私の席はみえないし、てことは一番うしろに仲間が！？だれなんだろ？あれ？このスキーバックまさか・・・みてみよ）」

ばすじゃっく

「またおめえか！？ころされてえか！？」

哀

「やっ」

浅井

「やめてください！！たかが子供のいたずらでしょう！？」

ばすじゃっく
「ちッすわってろ」

哀
「やっぱりだれか仲間が・・・困ってるんだからあなたもなにか智恵だしなさいよくどうく、ってえ・・？」

コナン
「・・・・・（やっぱりいる。この社内にやつらの０仲間が・・・・たのむ、みつからないでくれっ）」

哀
「（まさかやつらの仲間が!？あ、でもいまはそれよりばすじゃっくを。そっか、わかったわ!!）じょ、ジョディ先生、口紅もってない？」

ジョディ
「どうぞ？」

哀
「（みんなに指示をだしたから。）この人たちあたし達を爆弾でころすつもりよ!!だって顔みせてるし、これ、ばくだんでしょう？」

ばすじゃっく
「くそっ」

運転手
「（ストップ？）」

きいいいいいいいいいいいいいいいいい

哀
「よし、やつらはすわってなかったせいでのびてるわね。さあガムのおねえさん、覚悟！！」

おねえさん
「にげてええええあと３０秒で爆発するわよおおおお！！」

哀
「え！？」

みんな一揆ににげだした。

コナン以外はにげた。

歩美
「あれ？コナン君は！？」

光彦
「いませんね・・？」

哀
「まさか、まさかあのこ！！」

コナン
「（そう、コレが最善策・・・・どうせ組織にであったときから逃げ場なんてなかったんだな・・・それにたすかっても事情聴取でい

やでもあいつと顔をあわせることになる・・・・本と、ばかだよな、おれ・・・・）」

がっしゃん

コナン
「え！？」

どっかん！！！

がらがらがら

哀
「はあ、はあ！！逃げてんじゃないわよ！！自分の運命から！！にげんじゃないわよ！！」

コナン
「灰、バラ・・・」

哀
「高木刑事、このこけがしてんの。事情聴取わわたしだけでうけるからほかのこといっしょに病院につれってって！！はやく！！

高木
「あ、ああ。よいっしょっと。」

高木がコナンをだきあげパトカーにのった。

歩美
「大丈夫？地がいっぱいでてるよ？」

コナン
「ああ。これおれの血じゃないからさ。あいつの血」

ジョディ
「すごかったですね！！」

浅井
「でも、治療がおさき。」

哀
「あ。」

シードルはコナンの写真にダーツの矢をさし炎をつけて武器みにわらった。

シードル
「みーつけった・・・」

ファイル6～見ィつけた♪そして、探しにいくよ？～

コナンたちはゆき子につれていってもらい試写会にやってきたが湖南は怪しいやつらに「おいかけまわされ、心身不安だったが、アミがそれをまいてくれた。

ゆきこもそのひのうちにきこくし、一件落着かとおもったが・・・・

コナン
「ハアッハアッ」

歩美
「だ、大丈夫なの！？」

コナンはリビングのベッドでみんなにかこまれながら荒い息をあげ、頬をまっかにし、汗をたらして、額にはぬれたタオルをのせてよこたわっていた。

博士
「多分最近いろいろありすぎたせいできずかれしたんじゃろう・・・」

哀
「まあ誘拐、監禁、銃でうたれたあぎゃく大怪我。さらにバスジャックされたしゃないで組織の気配をかんじ、そしてそして昨日は得たいのしれないやつらにおいかけまわされた。となればこうなるのもあたりまえだけど・・・」

平次

「とりあえず東都デパートの病院なら今日もやってるし、評判の卵粥もあるからそこにいこか。ほなにみんなでのれる車かりてきてや～」

はかせ
「ちょっとまっとれ。」

全員車にのりこみ、いま、とうとでぱにむかってはしっている。

平次
「なんやとお！？2時間まちい！？」

でんわ
「はい。いま患者さんがたてこんでまして・・・」

平次
「とりあえずよやくしとくわ」

ぴ

平次
「いまからやと2時間待ちやそうや。ま、それまで卵粥でもくいにいこか。」

アミ
「そうね。」

げんた
「やったぜ！！」

そしてでぱーとの地価の駐車場二車をとめ、みんなでてきた。

哀
「はい。まだ頭くらくらするんでしょう？つかまりなさい。」

コナン
「・・・・・いいよ、車ぐらい、自分で、でられ！！」

コナンはそこまで行った瞬間棒立ちになった。

前の駐車場にポルシェが数台ならんでいる。

光彦
「ん、ああ。大丈夫ですよ、どれもジンのとは色や種類がちがいますから。」

コナン
「俺、やっぱり車のなかでまってるよ」

コナンはそういうと車にはいっていってしまった。

博士
「お、おい！！」

アミ
「しょうがないわよ・・・」

一同
「え？」

アミ
「得たいのしれないやつらに一日中おいまわされたのよ？だれだってそうしたくなる・・・さ、いきましょう？」

歩美「う、うん。」

そういうとコナン以外の人はでていった。

一時間半ほどたったころ、みんなが車にもどってきた。

コナンはさきほどとおなじように荒い息をあげ、後部座席にyこたわっていた。

そんなコナンをへおぞがもちあげ、タオルケットをかけながらおんぶして歩き出す。

コナンをみんな心配そうにみていた。

コナンは病院につくとすぐよばれ病室にはいっていった。

しばらくすると、コナンと博士がでてきた。

はかせ
「ただの風邪みたいじゃよ。大丈夫、すぐなおるそうじゃから。」
そういうとコナンを平次にわたした。
コナンはそうとううかれていたのか平次におんぶされて運ばれている途中ねてしまった。

3日後・・・・

歩美
「よし、やっとげんきになってきたね！コナン君！」

コナン
「ああ、もう咳だけだからな・・・」

アミ
「まあそれだけおちついてきたってことじゃない？」

コナン
「そーかもな・・・」

哀
「でもまだ外にでちゃだめよ？やつらがいるかもしれないんだから。わかってる？工藤君。」

コナン
「へいへい・・・・」

夢
「は～い夢特製あつあつ卵粥～♪たるが低のにはまけるけど～♪風邪引きさんにはこれがいっちばん♪はい、どーぞ」

コナン
「サンきゅ・・・・」

夢
「みんなはさんどいっちね～はいこれ！」

コナンは湯気がたっているおかゆをたべだした。

コナン
「あちっ・・・・」

『まあそれだけおちついたってことじゃない？
そーかもな・・・
でもまだ外にでちゃだめよ？やつらがいるかもしれないんだから。
わかってる？工藤君
へいへい。
は～い、夢特製あつあつ卵粥～♪たるが低のにはまけるけど～風邪引きさんにはこれがいっちばん♪はいどーぞ
サンきゅ・・・
みんなはサンドイッチね～はいこれ！

あちっ・・・・』

スコッチは暗い部屋でイヤホンを耳につけコナンたちをとうちょうしていた。

スコッチ

「ふふっ・・・・俳優を休業しただけあったな・・・・ナイン、エイト、セブン、シックス、ファイブ、フォー、スリー、トゥ、ワン・・・・ｒｅａｄｙｏｒｎｏｔ・・・もーいいかい♪ｈｅｒｅｉｃａｍｅ・・・さがしにいくよ？ｉｓｅｅｙｏｕ・・・見ィつけた♪」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0214ba/

キャラ崩壊！！物語１～こくこく染まる黒～

2012年1月1日01時00分発行